

3 研究のまとめ

本研究では、平成26・27年度に行った「支え合う人間関係を築くための支援の在り方ーピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発」において作成した「ピア・メディエーションに関する活動プログラム」（以下、活動プログラム）の効果的な進め方を探りました。

活動プログラムを効果的に進めるために、授業実践前後に取り扱う内容や方法の効果を探り、児童生徒が互いに関心をもち支え合う学級集団づくりを目指すこととしました。中でも、児童生徒の身近によく起きるトラブルの場面を取り扱うロールプレイング等の場面において意図的なグルーピングを行い、ロールプレイング等の活動を円滑かつ効果的に進めることとしました。以下に、研究の成果及び課題と今後の展望について述べます。

(1) 研究の成果

- 小・中・高等学校全ての校種において、「学習のねらいをより達成するため」及び「児童生徒の心理面に配慮するため」というグルーピングの視点を踏まえて、ロールプレイング等の場面におけるペアやグループを意図的に構成し、活動プログラムを効果的に進めることができました。
- 小・中・高等学校全ての校種において、意図的なグルーピングを行うための「グルーピングのためのツール」を作成しました。「グルーピングのためのツール」は、「グルーピングのためのアセスメントシート」と「グループ活動アンケート」、「P I G（ピグ）シート」の3つで構成されています。最初のグルーピングで取り扱う「グルーピングのためのアセスメントシート」は、学校現場で広く活用することができるように、「Q-U」アンケート版と「がばいシート」版の2種類を作成しました。また、この「グルーピングのためのアセスメントシート」と「グループ活動アンケート」は、活動プログラムを実践する場合だけでなく、学校におけるペアやグループでの諸活動においても活用できるシートとして、提案することができました。
- 小・中・高等学校全ての校種において、学級単位での授業実践を行い、その取組を紹介することで、学級における活動プログラムの効果的な進め方を提案することができました。また、中学校においては、学級単位の授業実践に加えて、学年全体という形態で活動プログラム全5時間の授業実践を行うことができました。学年全体で「グルーピングのためのツール」を活用し、学年会議でグルーピングを行いました。その結果、グルーピングの視点を共有した上での職員間の情報交換が活発になり、生徒に対する共通理解の深まりにつながりました。

(2) 課題と今後の展望

- 検証結果では、「グループ活動アンケート」を基にした検証の視点Ⅰ（「関心」「親近感」「仲間意識」）における数値はおおむね好転しており、児童生徒の「振り返りシート」の記述や担任観察と併せて考察した結果、意図的なグルーピングを踏まえた活動プログラムの効果的な進め方を提案することができたと考えます。しかし、「がばいシート」を基にした検証の視点Ⅱ（「学級の雰囲気」「友達との関係」）においては、想定していた数値の伸びが見られなかったところもありました。一方、児童生徒の「振り返りシート」には、「今後、学級の雰囲気や友達との関係が良くなっていく」「今後、良くしていきたい」という記述が多く見られました。これらのことから、本研究の目標である、児童生徒が互いに関心をもち支え合う学級集団づくりを目指していくためには、学習した内容をトラブルの場面だけでなく日常の場面でも継続して取り扱っていく必要があると考えます。また、意図的なグルーピングを踏まえたペアやグループでの活動の場面を様々な学習活動の中に積極的に取り入れていく必要があると考えます。
- 今回の中学校における学年全体での取組において明らかになったように、学年における活動プロ

グラムの実践を通して、学年の職員間の情報交換が活発になり、生徒に対する共通理解が深まることにつながるようになりました。このことから、児童生徒の実態や発達の段階を踏まえて、学級単位だけでなく、学年全体や学校全体での取組へと広めていくための活動プログラムの進め方について検討していく必要があると考えます。

- 平成26・27年度のプロジェクト研究において作成した「ピア・メディエーションに関する活動プログラム」については、平成28年度の教育センター研修講座「子供同士が支え合う学級づくりのためのピア・サポート講座」において、所員による活動プログラムの模擬授業を行いました。受講した先生方からは「ロールプレイングで役割を演じることで、トラブルの当事者の気持ちが分かった」「児童生徒役を体験したことで、活動プログラムの有効性を実感することができた」「すぐに学校で取り組んでみたい」等の感想を頂きました。このことから、支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、今後も、活動プログラムを研修講座や学校支援等で紹介して活用の啓発を図っていきたいと考えます。そして、活動プログラムを更に効果的に進めるために、児童生徒の実態や発達の段階に応じた意図的なグルーピングの意義や目的、「グルーピングのためのツール」等を紹介し、広めていきたいと考えます。

